郷土の先人 Ver. 4

かごしまの心（こころ）

～今日（きょう），どの先人（せんじん）？～

小学校 1・2年

「あなたの　おし　は　だれですか？」

鹿児島県教育委員会

もくじ

「主題名」――〔教材名〕【登場する人物】

1 「かんしゃの　気もち」――〔わたしたちの　家ぞく〕……1
【上白石　萌音・上白石　萌歌】

2 「ちがっていても　なかよく」――〔ママが　教えてくれたこと〕……4
【AI】

3 「みんなの　ために」――〔利右衛門さんの　からいも〕……7
【前田　利右衛門】

4 「あい手の　気もちを　考えて」――〔たすけられた　さいごうさん〕…10
【西郷　隆盛・土持　政照】
5 「くじけない　心で」――――〔くるしさを　のりこえて〕……13
【鶴田　義行】
6 「ふるさとを　思う　気もち」――〔人を　思い　ふるさとを　思う〕…16
【八島　太郎】

じどうの　みなさんへ

この本は、かごしまと　かかわりのある　人たちの　お話が　のっています。どのお話も　その人が　かごしまで　すごしながら　思ったことや　考えたことが　書かれています。このお話から　考えたことなどを　自分の　生かつに　生かして　みましょう。

※　じゅぎょう　いがいでも　読んでみたい　人の　話が　あったら　読んでみましょう。

※　この本の　ほかにも　かごしまと　かかわりのある　人たちの　お話をのせた本に　「郷土の先人」・「続・郷土の先人『不屈の心』」・「ふるさとの心」があります。学校においてあったり、鹿児島県教育委員会の　ホームページに　のっていたりするので　読んでみましょう。

1

かんしゃの　気もち

わたしたちの　家ぞく

かごしまで　生まれそだち、今では　東京を　中心に　外国でも
活やくしていて、はいゆうや　歌手の　しごとを　している　二人が
います。その二人の　名前は、あねの　上白石萌音さんと　いもうとの
上白石萌歌さんです。

萌音さんと　萌歌さんは、お父さんや　お母さんから
「人に　会ったときは、この人に　ありがとうって　言えることは
なかったかなと　思いかえして　考えなさい。」
「考えないで　ものを　言っては　いけないよ。」
などと　よく　言われて　いました。だから、二人は
「お父さんや　お母さんのことを　きびしい。」と　思って　いました。
二人は　大きくなり、萌音さんは　大学じゅけんの　べんきょうが

うまくいかず　気もちが　おちこんでいた　時が　ありました。その時
お父さんと　お母さんから
「一生けんめい　やった　けっか　たどりついた
場しょが　一ばん　いい場しょだよ。」
と　言われました。お父さんと　お母さんの　この　ことばを
きっかけに　萌音さんは「うまく　いかなったこと、つらくて
しょうがなかった　ことは　なによりの　エネルギーになり、しっぱいも
たからものになる。」と　考えることが　できるように　なりました。
萌歌さんも、十八才の時　はいゆうの　しごとを　していて　自分の
力が　足りないと　おちこんでいた　ことが　ありました。その時
お父さんと　お母さんから、
「どの　おしごとも　大へんだから　自分だけが　大へんだと　思わない
ほうが　いいよ。はたらくことは　つらい思いを　することも　あるから

自分で　えらんだ道に　せきにんを　もって　やりなさい。」

と　言われました。お父さんと　お母さんの　ことばを　きっかけに

萌歌さんは、「自分を　ささえてくれる　人たちも　くるしいことが

あるから、自分も　がんばろう」と　考えることが　できるように

なりました。

萌音さんと　萌歌さんは、きびしく　しかってくれたり、たくさんの

ことを　教えてくれたりした　お父さんや　お母さんの　ことばを　今も

大切に　しています。そのことばは、二人が　きんちょうしたり

ふあんになったりした　時に　ゆう気を

くれるものに　なっています。二人は、お父さんや

お母さんのことを　思うと、「ありがとう。」

という　気持ちで　心が　いっぱいになります。

2

ちがっていても　なかよく

ママが　教えてくれたこと

「ハピネス」
きみがわらえば
このせかい中に
もっと　もっと
しあわせがひろがる
きみがわらえば
すべてがよくなる
この手で　その手で
つながる

このかしを　書いたAIさんは、中学生まで
かごしまけんで　すごしました。
お母さんは　アメリカ　しゅっしんで、
AIさんも　アメリカで　すごした　ことが
ありました。
このお話は、AIさんが　子どもの　ときの
お話です。

アンティー。これは、日本語で「おば」という　いみです。
わたしには、たくさんの　アンティーが　います。はだの　色が
ちがう　アンティー。生まれた国が　ちがう　アンティー。
出会って　すこししか　たっていない　アンティー。でも　みんな

※　おば・・・お父さんや　お母さんの　姉妹にあたる　しんせき

ママの　友だちで、家ぞくのように　なかよしです。わたしが生まれた　時から、ママが　みんなの　ことを　アンティー
と　よんでいたので、しぜんに　そう　よんでいます。
　ママは、いつでも　だれにでも　話しかけたり、ハグをしたり
します。ある日、車いすを　つかっている人に　出会いました。
わたしは、どうしてよいか　わからずに　もじもじ　していました。
　すると、ママは　その人に　すぐに　かけより、声をかけ、
ハグを　しました。わたしは、「ええっ。なにしているの。そんな
ことを　したら　だめだよ。」と、思いました。そして、ママは、
「ヘイ！　友だちよ。」
と　わたしに　言いました。そのことばを　聞いて、
わたしは、たくさんの　アンティーたちを
※　ハグ・・・あいさつの　かわりに　あい手を　だきしめること

思い出しました。

「そうだ。みんな友だち　そして　家ぞく　だったな。」自分とは

ちがうから　なかよくなれない　かかわることは　できないと

思ってしまって　いました。

そうではなくて　自分とは　ちがうからこそ、あい手を知りたくなるし

おたがいの　すてきな　ところに　気づくことが　できること。

そして、ちがっていても　ちがいを　みとめ合い　ささえ合う　ことが

大切だ　ということを　ママが　教えてくれました。

わたしは、ママのハグを　もういちど　見て　みました。

これまでよりも、もっと　心が　あたたかく

なりました。

3

みんなの　ために

利右衛門さんの　からいも

「たくさん　食べて　おなかいっぱいに　なりたい。」

むかし　作もつが　そだちにくかった

山川（げんざいの　指宿市山川）で　生活していた

前田　利右衛門さんたちは　いつも　おなかを　すかせて　いました。

ある時　琉球に　出かけた　利右衛門さんは、

どんな　ところでも　そだつという「からいも」に

出合いました。利右衛門さんは、からいものなえを

山川に　もち帰り、毎日たっぷり　水をかけ、

かれないように　大切に　そだてました。

秋になり　土の　中を　ほると　たくさんの

からいもが　出てきました。

※　からいも・・・さつまいも

※　琉球・・・げんざいの沖縄県

【山川（指宿市）が　あるところ】

「あった。あった。からいもが　あったぞ。」
大きな声で　さけびました。そして　さっそく　家ぞくで　にて
食べました。はじめて　食べる　からいもは　ほくほくして、
くりのような　あまい　あじで　みんな　え顔で
「うんまか。うんまか。おなかいっぱいだ。」
と、よろこんで　食べました。みんなの　顔を　見て
利右衛門さんも　うれしく　なりました。来年は　もっと
たくさんの　からいものなえを　作って　山川の　人たちにも
分けてあげよう。そして　おいしい　からいもを　食べさせて
あげようと　利右衛門さんは　思いました。だから　しゅうかくした

からいもは、ぜんぶは食べず　なえを　作るために
大切に　とっておきました。
利右衛門さんは、いろいろ　ためして、たくさんの
なえを　作ることに　せいこうしました。そして、できた

なえを　きんじょの　人に　くばり、そだてかたも
ていねいに　教えて　回りました。にても、やいても　おいしい
からいもは、みんなに　大へん　よろこばれ、遠くからも
なえがほしいと　人びとが　やってきました。
　利右衛門さんの　おかげで、山川では、からいも
ばたけが　どんどん　広がって　いきました。
　いちめんに　広がった　からいもばたけを、利右衛門さんは
うれしそうに　見つめて　いました。

【げんざいも　山川の畑に広がる　からいも畑】

【利右衛門さんが　まつられている　徳光神社】

【利右衛門さんの　名前が　書かれた石ひ（徳光神社）】

4

たすけられた　さいごうさん

あい手の　気もちを　考えて

みなさんは、西郷隆盛さんを　知っていますか。

これは、西郷さんが　さつまの　おとのさまを　おこらせてしまい　沖永良部島に　つれて　行かれた時の　お話です。

沖永良部島で　西郷さんが　入るろうやは　せまくて　かべも　ありませんでした。食じも　とても　そまつな　ものでした。

西郷さんの　おせわをしていた　土持正照さんは「このままでは、西郷さんが　びょう気に　なって　しまう。」と　考え、ごちそうを　つくらせて

【西郷隆盛さんが　すごした　ろうやの　ようす　(和泊町　西郷南洲記念館)】

出しました。しかし　そのたびに　西郷さんは、
「お気もちだけ　ちょうだい　いたします。」
と　言って、食べることは　ありませんでした。このままでは
西郷さんは　死んでしまうと　思い、土持さんは　いそいで
だいかんに　会いに　行きました。
「おねがいが　あります。とのさまからの　めいれい書には
西郷さんを　かこいの中に　入れよと
書いて　あります。家の中に　つくった
ざしきろうが　かこいです。そこに
西郷さんを　うつしてください。」
すると　だいかんは、
「ううむ。わかった。家の中の　ざしきろうに

※　だいかん・・・そこにすむ　人びとの　生活を　よりよくする人
※　ざしきろう・・・いえの中にある　ろうや

西郷さんを　うつしなさい。」

と　言いました。

土持さんは　大よろこびで、西郷さんの　ところへ

つたえに　行きました。

「西郷さん、家の中の　ざしきろうに、おうつりください。」

すると、西郷さんは、なみだを　ながしながら、土持さんの

話を　きいて　いました。そして、こう言いました。

「土持さん　本当に　ありがとうございます。わたしは　この

ろうやの中で　いつか　死ぬだろうと思って　おりました。」

二人は　ろうやの中と　外から　手を　かたく　にぎりしめ

ないて　よろこび　合いました。

西郷さんに　とって、土持さんは　いのちの　おんじんであり

かけがえのない　そんざいに　なりました。

5

くじけない　心で
くるしさを　のりこえて

【鶴田義行さんの　どうぞうと　石ひ(鹿児島市)】

鹿児島市の　伊敷という　ところに　上の
しゃしんの　ような　どうぞうが　たって
います。そのとなりの　石ひには　こんな
ことばが　のこされて　います。

苦しい　うちは　ダメ
鍛錬不足の　証拠
苦しさに　慣れ　平気に　なって
本当の　苦しさ　探究が　始まる

【いみ】

くるしいと　思っている　うちは　まだ　ど力　しているとは　言えない。れんしゅうを
かさねて　くるしさに　なれて、さらに　高い　目ひょうへ　むかって　いくことが　大切です。

みなさんは　この人が　だれか　知って　いますか。

この人は、鶴田義行さん。　一九三二年の　ロサンゼルスオリンピックで
オリンピックと　一九三二年の　ロサンゼルスオリンピックで
日本で　はじめて　二大会れんぞく　金メダルを　かくとくした
水えいせん手です。そんな　大きろくを　もつ　鶴田さん　ですが、
けっして　はじめから　およぎが　上手だった　わけでは　ありません。
家の前を　ながれる　甲突川。鶴田さんが　子どものころは
きょうだいや　なかまと　その川で　よく　あそんで　いました。

ある　夏の　あつい日。鶴田さんは　そこで
おぼれそうに　なって　しまいました。そのころは
まだ　およぐことが　できなかったのです。
まけずぎらいの　鶴田さんは　それから
およぎの　れんしゅうを　はじめました。

※　アムステルダム・・・オランダの　しゅと　※　ロサンゼルス・・・アメリカの　大きな　と市

※　甲突川・・・鹿児島市を　ながれる　川

もちろん　はじめは　ほとんど　前に　すすむことが
できません。
「くるしいなあ。でも　くるしいのは　れんしゅうが　たりない
しょうこ。まだ　まだ　がんばるぞ。」
そうして　何ども　何ども　およぎつづけて　だんだんと
およぐことが　できるように　なってきました。それどころか
なかまたちが　川の　ながれに　そって　およいでいる中、その
ながれに　さからって　一人　上りゅうへ
上りゅうへと　およいでいく　すがたも
見られるように　なりました。
この　子どもの　こころの　くるしさを　のりこえた
けいけんが　オリンピックの　金メダルに
つながって　いったのです。

※　上りゅう・・・川のながれの　上の　方

【オリンピックに　出じょうした時の　鶴田義行さん】

6

ふるさとを　思う　気もち

人を　思い　ふるさとを　思う

白い　すなはまに　うちよせる　なみの　音。
海を　わたる　そよ風。

おじいさんに　なった　八島太郎さんは、遠く
アメリカの　地で　大すきな　ふるさとを
思い出して　いました。

八島さんが　生まれたのは　げんざいの　南大隅町の
根占です。八島さんは　ゆたかな　自ぜんや　友だちと
すごす　時間が　大すきでした。大人に　なった
八島さんは　画家となり　絵の　べんきょうを
したいと　思って　アメリカへ　わたりました。

【根占（南大隅町）が　あるところ】

ちょうど　そのころ、日本と　アメリカが　せんそうを
はじめました。せんそうは　しだいに　はげしくなり　たくさんの
人が　なくなりました。八島さんが、ふるさとや　友だちを
思わない　日は　ありませんでした。八島さんは、「いのちを
だいじに　してほしい。生きてほしい。」「人と　人が　いのちを
うばいあう　ことは　ぜったいに　あってはならない。」と
平和への　思いを　絵にかいて　日本へ　とどけました。

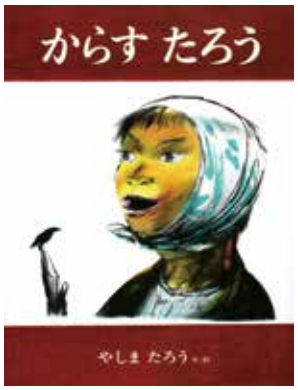
かなしみに　つつまれた　せんそうが　やっと　おわりました。
八島さんの　ふるさとの　根占も　せんそうの　ひがいを
うけました。せんそうの　ために　大切にしていた　自ぜんや
友だちも　うしなって　しまいました。八島さんの　心も　大きな
かなしみに　つつまれました。

その後、八島さんは、ふるさとで　すごした　日びを　えがいた
絵や絵本を　かきました。

友だちと　わらいあった　日び、心の　ささえとなる
人との　つながり、大切に　してきた
思いや　ねがい　などを　いくつもの　作ひんに
こめたのです。これからの　みらいを　生きる
子どもたちのために。今を　大切に　してほしいと。

八島さんは、ふるさとの　根占で
すごした　日びを　えがいた
作ひんを　かいています。
『からす　たろう』・『村の樹』・
『道草いっぱい』・『海浜物語』
など、八島さんの　少年時だいの
思い出や　ふるさとへの　思いが
つたわる　作ひんです。
ぜひ、読んでみてください。

【八島太郎さんが　えがいた作品
『からす　たろう』】〔偕成社〕



【子どもたちにかこまれる画家・絵本作家
八島太郎さん（本名　岩松　淳さん）】
〔(株) 創風社〕

かごしまけんりつはくぶつかんに　ある　きょうりゅうかせきです。
この　かせきの後ろに　ある　大きな絵も　八島さんが　えがきました。
子どもが　大すきだった八島さんが、鹿児島の　子どもたちに
見てほしいと　思いを こめて　えがきました。
かせきとともに　きょうりゅうたちが　生きていた　はくりょくある
時だいが　わかる　とても きちょうな　ものです。

【「海浜物語」の　ぶ台である　吹上浜(日置市)】

みなさんへの　メッセージ

【上白石萌音さん】

あい手が　どんな気もちで　いるか、これを　言ったら　どういう　気もちに　なるか　そうぞう力を　もって　生活してください。

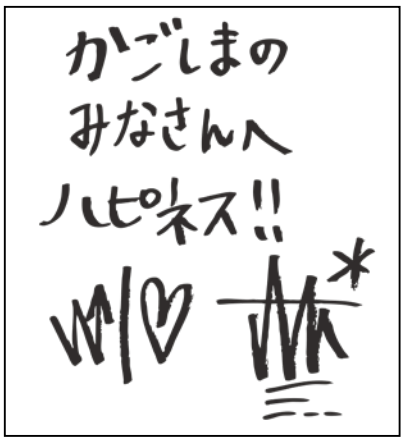
うれしいことや　かなしいことは　大人に　なって　自分をたすけて　くれます。とくに　かなしいことや　つらいことを　けいけんすると　やさしく　なれます。心が　うごくことは　しあわせな　ことです。心を　うごかすことを　大じにしてください。

【上白石萌歌さん】

人との　ごえんや　ごおんを　大切に　してください。小さいころに　見た　けしきや　体けん、友だちと　けんかしたことなどは　自分を　つくる　もとに　なります。いろいろな　ことを　一ばん　キャッチ　できる　じきだと　思うので、まい日、朝おきて　学校に　行く　だけでも　すばらしい　ことです。まい日　いろいろな　ことを　かんじながら　すごしてください。

【AI さん】

今、わたしは　お母さんが　言っていた「みんな友だち」ということばが　とてもすてきだと思っています。「ちがうことが、いけないのかな。」「みんな　おなじ　なのではないのかな。」「もともと、みんなを　くべつしなくても　いいのでは　ないかな。」そう思って　います。どこに　すんでいても、どんな　ことばを　話しても、みんなに　楽しく　いてほしい、元気で　あって　ほしい。歌っている　歌にも　その思いを　こめています。そして、その　思いが　せかい中の　みんなに　とどく　ことが　わたしの　ねがいです。



保護者の皆様へ

この本は，鹿児島県の子供たちのために作成した道徳の教材です。子供たちが，この本に登場する人物の考え方や生き方にふれ，自分の生き方について考えを深め，夢や希望をもって過ごしてもらえることを願って作成しました。ぜひ，この教材を一緒に読んでいただき，お子さんと思ったことや考えたことを話し合ってみてください。また，さらに知りたい，深めたい場合には下に記載している【参考・引用文献】も紹介してみてください。

【参考・引用文献】（順不同）

□前田　利右衛門

「かごしま文庫⑲　さつまいも―伝来と文化―」（春苑堂 1994 年）

「令和５年度企画展図録　指宿まるごと博物館ＸⅣ　海が織りなす焼酎文化　～芋・技・肴・器～」（指宿市考古博物館　　時遊館ＣＯＣＣＯはしむれ）

「甘藷翁物語」（三州談義社 1966 年）

□西郷　隆盛・土持　政照

「西郷隆盛と沖永良部島」（和泊西郷南洲顕彰会 2011 年）「郷土の先人（土持　政照）」（和泊町教育委員会）

「えらぶの西郷さん」（和泊西郷南洲顕彰会 1988 年）

□鶴田　義行

「（財）日本オリンピック委員会監修『近代オリンピック 100 年の歩み』」（ベースボール・マガジン社 1994 年）

「南日本新聞社編『郷土の人系　中巻』」（春苑堂 1969 年）「知ってるつもり」（日本テレビ 1992 年）

「郷土教育　第６号」（鹿児島県総合教育センター指導資料 2021 年）

「文藝春秋 第 98 巻第１号」（文藝春秋 2020 年）

「オリンピックを通してつかんだ水泳の心」（鹿児島県総合教育センター読み物教材 2021 年）

「南日本新聞『かごしま 20 世紀山河こえて』」（南日本新聞社 1999 年）

「伊敷地域ガイドマップ」（伊敷地域まちづくりワークショップ　出版年不明）

「日本の金メダリスト事典１ 夏季オリンピック・冬季オリンピック編」（ベースボール・マガジン社 2018 年）

「失敗図鑑 偉人・いきもの・発明品の汗と涙の失敗を集めた図鑑」（いろは出版 2018 年）

□八島　太郎

「八島太郎 - 日米のはざまに生きた画家 - 」（創風社 2008 年）

【協力】（敬称略，順不同）

東宝芸能（株）／株式会社 ザ・マイカホリックス／指宿市考古博物館 時遊館 COCCO はしむれ／西郷南洲記念館／西郷南洲顕彰館／和泊町教育委員会／和泊町立和泊小学校／南大隅町教育委員会

真竹　由子／山田　みほ子／假屋園　昭彦／島津　公保／下豊留　佳奈／野間　友見／永里　智広／山下　久美子／泉　宗弘／山口　親悟／長薗　誠／前畑　あさよ／塩満　貞徳／所﨑　陽／池来須　隆子／坂口　洋幸／安樂　朋陽／栫　千明／諸平　幸奈／西原　真琴／西村　優子／毛利　秀喜／冨吉　祐輔

学習内容一覧

	主題名	教材名	内容項目
1	かんしゃの　気もち	わたしたちの　家ぞく	B 感謝
2	ちがっていても　なかよく	ママが　教えてくれたこと	C 公正，公平，社会正義
3	みんなの　ために	利右衛門さんの　からいも	C 勤労，公共の精神
4	あい手の　気もちを　考えて	たすけられた　さいごうさん	B 親切，思いやり
5	くじけない　心で	くるしさを　のりこえて	A 希望と勇気，努力と強い意志
6	ふるさとを　思う　気もち	人を　思い　ふるさとを　思う	C 伝統と文化の尊重，国や郷土を愛する態度

「道徳教材～小学校１・２年生用～」
令和７年２月発行
編集・発行　鹿児島県教育委員会
〒 890-8577 鹿児島市鴨池新町 10 番１号

日本音楽著作権協会（出）
許諾第 2408292-401 号

この本の副タイトルについて

副タイトルを「今日，どの先人？（きょう，どのせんじん？)」としました。

その理由は，以前，私たちが作成した「郷土の先人（きょうどのせんじん)」の続編（４作目）であるからです。

また，これまでの教材を含めて「今日は誰の話を読もうかな」と前向きに思ってほしいという願いも込めています。